



クワガタムシとカブトムシは、いっしょに飼^かっているの

同じ^{おな}なのは、成虫^{せいちゅう}のえさだけ

クワガタムシとカブトムシは、林^{はやし}の樹液^{じゆえき}に集^{あつ}まるライバルです。体^{からだ}の大き^{おお}さや力^{ちから}の強^{つよ}さも同じ^{おな}くらいです。オス^{おな}どうしが会^あい合^あうと、けんか^{けんか}が始^{はじ}まり、そのときによつて、どちら^{おな}が勝^かつともいえないくらい、強^{つよ}さは同じ^{おな}です。見^みた感^{かん}じも似^にていますし、幼虫^{ようちゅう}も同じ^{おな}ような所^{ところ}にいそ^{おも}うに思^{おも}えますね。

でも、よく調^{しら}べてみると、クワガタムシとカブトムシは、生^{せい}活^{かつ}がちがっています。同じ^{おな}なのは、成虫^{せいちゅう}になつたとき、樹液^{じゆえき}やあま^あいしるが好^すきといふことだけです。ですから、えさは同じ^{おな}ものでよくても、オス^{おな}の成虫^{せいちゅう}を同じ^{おな}飼^し育^{いく}ケースでいっしょに飼^かうと、けんかばかりすることになり、どちら^{からだ}も体^{からだ}が傷^{きず}つきます。クワガタムシは、同じ^{おな}種^{しゅるい}類^いのオス^{おな}を二^いひき以上^{いじょう}いっしょにするだけでも、すぐけんかするので、いっしょに飼^かうのは、やめたほう^かがよいでしょう。

幼虫^{ようちゅう}も、いっしょに飼^かえない

幼虫^{ようちゅう}は、カブトムシとクワガタムシでは、生^{せい}活^{かつ}している場^ば所^{しょ}も、食^たべる物^{もの}もちがいます。カブトムシの幼虫^{ようちゅう}は、落^おち葉^ばの^{した}腐^ふ葉^{よう}土^どにもぐり、腐^ふ葉^{よう}土^どをえさにして大^{おお}きくなり、さなぎになるときは、腐^ふ葉^{よう}土^どの^{した}土^{つち}にもぐります。クワガタムシの幼虫^{ようちゅう}は、たおれてか^きれた木^きや、切^きり株^{かぶ}の中^{なか}にもぐりこみ、くさつてぼろぼろになつた木^きをえさにして成^{せい}長^{ちやう}します。さなぎになるのも、くさつた木^きの中^{なか}です。ですから、飼^し育^{いく}する環^し境^{きやう}もちがってきますので、幼虫^{ようちゅう} どうしをいっしょに飼^かうのは、むりです。(監修・中山 周平)

